

邦訳

原文：

<https://www.bundeskanzler.de/resource/blob/1832584/2037608/883b3ea4c4c65852c8a8da991559c7e4/2022-05-08-bk-ansprache-8-mai-pdf-data.pdf?download=1>

ドイツ連邦共和国オラフ・ショルツ首相のテレビ演説

ヨーロッパにおける第二次世界大戦終戦記念日

ベルリン 2022年5月8日

国民の皆さま、

77年前の今日、ヨーロッパでの第二次世界大戦が終わりました。武器が沈黙した1945年5月8日は、女・男・子供たち6千万人以上の墓場にただよう墓地の静けさに似ていました。

これらの人々のうちの何百万人は戦場で戦死しました。何百万の人々は、彼らの町や村で、強制収容所あるいは絶滅収容所で、殺されました。ドイツ人は、このような「人道に対する罪」を犯したのです。

ですから、第二次世界大戦が終わって77年の記念日である今日、ふたたびヨーロッパのど真ん中で、野蛮な暴力が法を破っているのを目にするのは辛いことです。ロシア軍隊がどのようにしてウクライナの男女・子供たちを殺し、複数の都市を廃墟にし、しかも避難する人たちまでをも攻撃していることか。

私にとりこの5月8日は、いままでのものとは異なったものです。

それゆえに私は今日あなた方に話しかけたいのです。

...

ヨーロッパでふたたび戦争が繰り広げられている、というこの事実に目を背けて、ヨーロッパでの第二次世界大戦の終わりを思い起すことはできません。ロシアがこの戦争を勃発させたのです。

ドイツの凶悪なナチズムを打倒するために、かつてロシア人とウクライナ人は甚大な犠牲をはらって共に戦いました。当時ドイツは、この両国に、つまりロシアそしてウクライナに対して、罪を犯したのです。私たちはこの何十年來、この両国の人たちと一緒に和解に向けて努力しています。

というのに、今やロシアのプーチン大統領は、ウクライナを支配下におき、ウクライナの文化を、ウクライナのアイデンティティを絶滅しようとしています。

プーチン大統領は自身の野蛮な侵略戦争を、なんとナチズムに対する戦いと同一視しています。これは、歴史の歪曲であり破廉恥です。これを明言することは私たちの義務です。

しかしそれだけで終わりません。

ドイツにおけるナチズムの独裁は、連合国の軍事上の勝利によって終わったのです。

われわれドイツ人は、今日にいたるまでこのことに感謝しています。

それがゆえに、かつての連邦大統領のリヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカーは1985年に、5月8日を「解放の日」、と述べることができたのです。

．．．

私たちは、1933年から1945年にわたる我が国の悲惨極まる歴史から一つの中心的な教訓を導きだしました。その教訓とは、「決してふたたび！」です。

決してふたたび戦争をしない。

決してふたたびジェノサイドをしない。

決してふたたび独裁政治をしない。

ところがふたたび起こってしまいました、ヨーロッパでの戦争が。今日この点をウクライナ大統領ゼレンスキーが指摘しました。

現状においてこれが意味することは次のことに他なりません。つまり、私たちは攻撃されている側の法と自由とを守る、ということです。攻撃者に対して為される戦いにおいて、私たちはウクライナを支援します。

何もしない、ということは、むき出しの暴力を前に降伏する、そして、侵略者を支援する、ということの意味はまずでしょう。

私たちは、暴力が終わるように支援します。

それがゆえに私たちは、過ぎ去った日々と週において、広範囲におよぶ困難な決断を、迅速かつ決然と下しました。

- プーチンを彼の戦争路線から思いとどまらせるために、ロシア経済およびロシア指導者に対し、前例のないさまざまな制裁措置を下しました。
- ウクライナからの何十万という男女を、両の手を広げて迎え入れました。彼らの故郷での暴力を前に、避難の場を私たちのところに見つけ出す何十万という人々です。さまざまな救助組織が応急支援をなし、学校・保育所は歓迎クラスを設け、市民は避難民を自分たちの家に迎え入れました。国のいたるところにおけるこれら多大な援助の手をさしのべる態度に対して、私は皆様に心から感謝しています。
- そして私たちは、連邦共和国の歴史上そもそも初めて、そのような戦争地帯に大量の武器を、加えて、綿密かつ慎重に考慮しながら重火器をも、送ったのです。これは続けます。

...

これらの決断にあなた方の多くが非常に動揺していることは、私には良く想像できます。

文字通りに戦争と平和が、問題となっているのです。

私たちの歴史責任が、問題となっているのです。

攻撃されているウクライナとの最大限の連帯が、問題となっているのです。

私たちの国および私たちの同盟諸国の安全が、問題となっているのです。

これらの目標を一致調和させる、という課題に私たちは昼夜とりくんでいます。

このような重大問題について、徹底的に討論することは、国として良いことであり合法的なことです。

「相手への敬意と尊重」を払って行われる意見の対立は、民主主義に欠かせないものでもあります。連邦大統領がこの点につき、今朝の演説で指摘したのは当を得ています。

このところ私が耳にする多くの意見は、深刻な不安を語っています。戦争が拡大するのではないか、私たちのもとにある平和も危険に侵されるのではないか、という懸念でもあります。

これらを簡単に退けるのは間違っています。このような懸念は、表明されなければなりません。

同時に言えることは次です。すなわち、恐怖によって私たちが麻痺状態になってはなりません。

．．．

ウクライナにおける、そして全ヨーロッパにおける法と自由とを守るために、私たちは何をするか、について私はあなた方に説明しました。きわめて多くのことです。

同時に私たちは、今あの人、またこの人が要求することの**すべて**を安易に行いません。なぜなら私は、首相就任宣誓において、ドイツ国民の被害を防ぐ、と誓ったからです。

この誓いには、私たちの国および私たちの同盟諸国を危険から守ることも含まれています。

この誓いから導き出される政策は、以下の明白な 4 原則です。

- 第一に： ドイツの単独行動はない！ 私たちが行うことは常に、ヨーロッパ内のそして大西洋の向こう側にいる私たちの同盟パートナーたちと極めて綿密に調整されたものである。
- 第二に： 私たちはすべてのことにおいて、私たち自身の防衛力が保持されるように注意を払う。加えて： 私たちは、ドイツ連邦国防軍が将来も私たちを守れるように、その防衛力を明白に高めることを決議した。
- 第三に： ロシアによりも私たちおよび私たちの同盟パートナーたちにより多くの損害をもたらすことは何一つしない。
- 第四に： NATO が戦争当事者となるような決断はくたさない。このことは変わらない！

世界大戦がふたたび起こってはならないこと、よもや核保持国のあいだで起こってはならないことは、5月8日の教訓の一つでもあります。

．．．

国民の皆さま、ウクライナに対するロシアの残酷な戦争がいつどのように終わるのか、今日わたくしは皆さまにまだ言うことができません。

しかし明らかなことは、ロシアの独裁による平和はありえない、ということです。そのようなことは、ウクライナの人々が、そして私たちも受け入れないでしょう。

今日のように私たちが、同胞たちおよびパートナーたちとこのように一致団結しているのは珍しいことです。

私は次のことを深く確信しています。

プーチンは戦争に勝てないでしょう。

ウクライナは乗り切るでしょう。

77年前に自由と安全が束縛・暴力・独裁に対して勝利を取めたように、自由と安全が勝利するでしょう。

このためにできる限りの力を尽くす、ということが今日、「決してふたたび！」を意味しています。

ここに、5月8日の遺志があります。

訳：奥道直

子